

## 第8号

2017年  
6月発行

## CONTENTS

事業四年目を迎える

国文学研究資料館 館長

ロバート キャンベル

①

日本古典籍の新しいプラットフォームの誕生

国文学研究資料館

古典籍共同研究事業センター長

谷川 恵一

②④

「新日本古典籍総合データベース」の公開開始

古典籍共同研究事業センター 特任助教

井黒 佳穂子

同センター 特任助教

松田 訓典

同センター 研究員

片岡 耕平

⑤⑦

共同研究「日本古典籍の書誌概念と書誌用語の国際化」について

国文学研究資料館 教授

落合 博志

⑧⑨

江戸の料理本をお手元に

⑩

第3回 日本語の歴史的典籍国際研究集会を開催します

⑪

トピックス

⑫

## ふみ

## 事業四年目を迎える

国文学研究資料館 館長

ロバート キャンベル



「日本語の歴史的典籍の  
国際共同研究ネットワーク  
構築計画」ニユーズレター



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館  
古典籍共同研究事業センター

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」も、はや四年目を迎えました。三〇万点におよぶ明治以前の日本の書物（歴史的典籍）をウェブ上に全冊公開し、その書物をもとにいろいろな分野の研究者が互

いの研究成果を持ち寄り、討議を重ね、新たな研究の枠組みを創っていくこの試みも、少しずつ成果が出てきています。古き時代の書物は、その取り扱いが難しいと思われるのか、なかなか手に取ることができないでしょうし、身近に存在する訳ではありません。しかし、そのなかに書かれていることを読み解いていけば、現代社会にも通じるさまざまな情報が溢れているのです。それは国文学分野のみならず、情報工学や天文学など、ありとあらゆる分野に涉っています。ウェブ社会の到来により、研究者だけではなく市民の方々も、煩雑な手続きを経ることなく、いつでもどこでも自由に歴史的典籍に触れていただけるようになりました。当館にこの四月に館長として就任し、こうした歴史的典籍をもっとさまざまな分野の方々に活用してもらえないか、様々に思案をしています。今後の本事業の進展にご期待いただくとともに、一層のご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

# 日本古典籍の新しいプラットフォームの誕生

国文学研究資料館  
古典籍共同研究事業センター長

谷川 恵一  
たにかわ けいいち

国文学研究資料館における古典籍の全文画像データは、これまで日本古典籍総合目録データベースから利用する方式で公開してきたが、本年四月より、古典籍の全文画像データを検索・閲覧するための新たな専用ポータルサイト「新日本古典籍総合データベース」(<http://kotenseki.nijl.ac.jp/>)の試験運用を開始した。

本サイトは、歴史的典籍NW事業の基盤として当館の古典籍共同研究事業センターが構築にあたってきたもので、本事業に参画している全国二〇大学に所蔵される三〇万点の日本古典籍をより自在に使いこなすための環境を提供することを目指している。

新日本古典籍総合データベースの最大の特徴は、古典籍にたどりつぐための新たな検索機能を搭載していることである。

日本古典籍総合目録データベースを経由していたこれまでの利用の仕方では、書名や著者名などを手がかりとして、求める古典籍を探していたのだが、こうした検索方法は利用者が対象となる古典籍についてあらかじめ一定の情報を所有していることを前提としている。書いた人の名も本のタイトルも忘れてしまっていてはお手上げなのであり、極端に言えば、利用者である研究者や学生は自分の守備範囲とする専門分野の中ですでに知られている本だけを読んでいたのである。

こういった状況が放置されると、多くの本が誰にも一顧だにされずにデータベースの中で眠りつづけることになってしまいうる。

新日本古典籍総合データベースに収める歴史的典籍の江戸時代までという範囲からは逸脱しているが、たとえば、一八九八年に出版された小池晩人が編んだ『医薬疾患句集』も、そうした忘れられた本の一つである。薬や病気がどのように俳句に詠まれてきたのを見るために、歳時記の枠組みを基本として江戸から明治の俳人の句を集めたもので、芭蕉の「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」(冬の部・地理・枯野)や子規の「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」(秋の部・植物・糸瓜)などといったよく知られた句を含め一五〇〇ほどの句が掲げられている。また、巻末に付された「俳句に現はれたる医薬及疾患」は、医師・患者・疾患・薬剤という項目の下に、「看護婦」「避病院」「転地」「コレラ」などの題によって明治の句を分類し直したもので、「病妻の閨に灯し暮るゝ秋」という編者自身の句も出ている。近代以降の一五〇句ほどを収めた清水貴久彦『病窓歳時記』俳句にみる病気とその周辺(まつお出版、二〇一一年)が刊行されるまで、本書は俳句と病との交渉を俯瞰ふかんしたおそらく唯一の書であった。

『現今俳家人名辞書』（宮地貞頼編、一八九九年）によると、晩人の本名は恭で、岡山市の医師である。医業のかたわら俳句を嗜たしなんでいた小池が、折りにふれ目にした句を写したためたのが本書ということになる。一九四〇年代のアメリカ合衆国における日系人の収容所で作られた俳書に「小池晩人」の名が見え（釜井輝子「アメリカ合衆国戦時強制収容所内俳句集覚書」、『JICA横浜海外移住資料館研究紀要』（9、二〇一四年）、本書の編者と同一人物だとすると後年アメリカに渡って活動したようだが、残念ながら生没年を含めくわしい経歴は不明である。

本書は『稿本虚子句集』などとともに俳書堂文庫の一冊として俳書堂から刊行されており、国立国会図書館や函館市中央図書館は本書を日本文学の詩歌に分類しているが、「医薬疾患」というテーマが災いしたのか、この本に触れた日本文学の論文はまだないようである。まして、医学の分野では、この本の存在はより縁遠いものだったろう。文学と医学という近代の学問の区分けの狭間はざまに落ち込んでしまったまま忘れられてしまったのである。

この本がもつ文化史的または学術的な価値はこれから見定められることになるが、文学作品への分野横断的なアプローチの先駆的な事例として、また、句集など既存の書物を新たなテーマに基づいて再編集する試みとして、この書のもつ意味は決して小さくはないだろうと思う。

こうした忘れられた本を含め、自分の専門領域の周辺やその外

にある多くの書物との出会いをもたらすため、新日本古典籍総合データベースでは、検索にさまざまな工夫をこらしている。そのひとつが、それぞれの書物の画像データに付されたタグによる検索である。

大蔵永常の『広益国産考』（一八五九年 DOI:10.20730/200018394）は、藺草いぐさなど有用な作物の育て方とそれを用いた製品の製造法を説いた書物だが、その中に人形のつくり方が図を用いてくわしく説明されていることはあまり知られていない（巻六の「雛」に付された「伏見人形拵様」）。そこには、人形に色を施すやり方も含まれていて、どのような絵の具を用いるのかも具体的に示されている。このような場合に、「伏見人形」なり「緑青」「福介ふくすけ」といった章題や本文中に登場する語句、および挿画に付された「人形を胡粉にて下ぬりする図」などといった説明が、該当する画像データにあらかじめタグとして付されていれば、そうした言葉をたよりに、大蔵永常やその著書についてまったく知識を持ち合わせていなくても『広益国産考』の該当する箇所直接たどりつける。『広益国産考』の画や記載が求めている情報にびたりと合致するのか、そうでないかはユーザの動機によってさまざまだが、そこに描かれた一九世紀半ばの人形制作のディテールは、読む者の知識を豊かにし、思いがけない発見へと導いてくれることもあるに違いない。

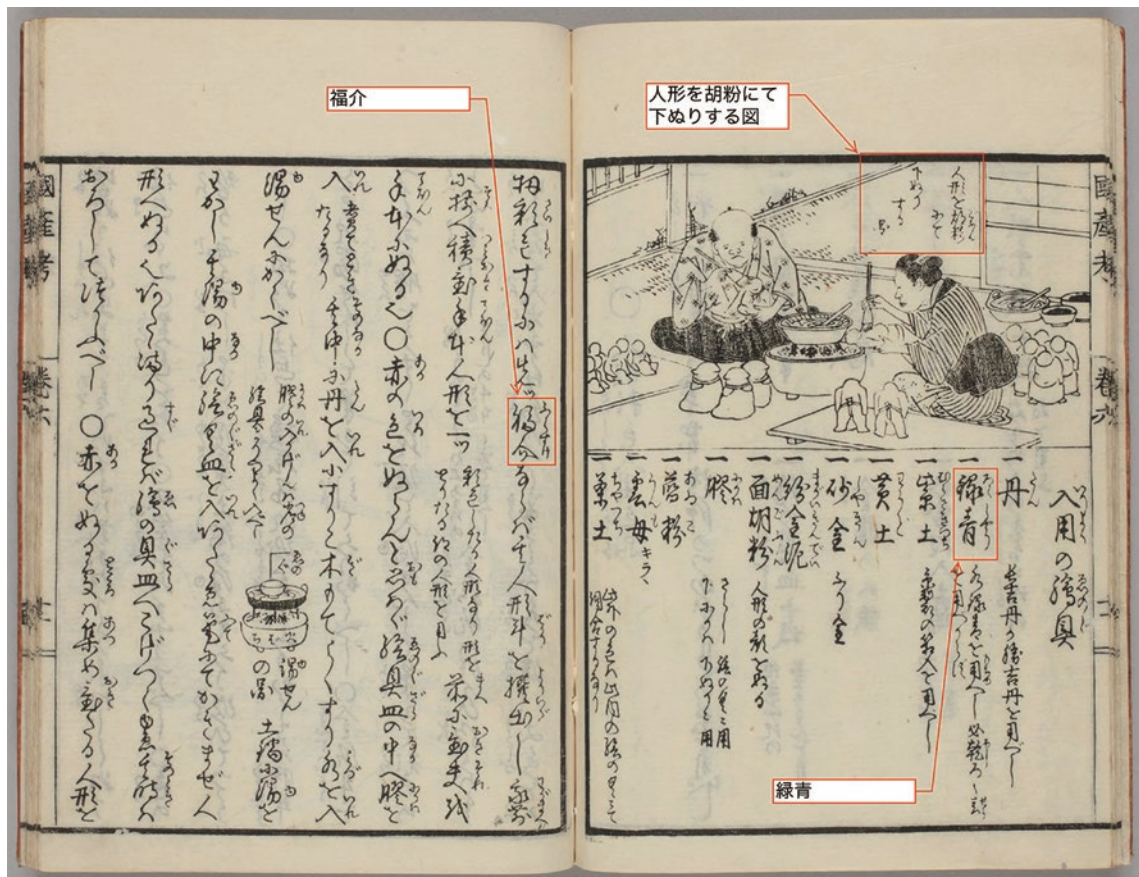
歴史的典籍NW事業の開始以来、国文学研究資料館では、データベースに搭載する三〇万点の典籍の内、各分野における主な典

籍5%を選定して、その画像データにタグを付す作業を館内の教員をはじめさまざまな研究者コミュニティや個人の協力を得ながら進めており、今後順次その範囲を拡大していく。現在ではまだタグが付されているのは一部の書物に限られているが、これからの充実に期待していただきたい。

また、こうしたタグによらない検索手法として、公立はこだて未来大学の寺沢憲吾氏と実施している検索機能の高度化に関する共同研究の成果として、ある特定の語句をくずし字のままでも同じ書物の中から検索する機能を一部の書物を対象として試験的に搭載している。画像処理の関係で結果が出るまでにまだ相当時間を要するが、新日本古典籍総合データベースを訪ね、こうした古典籍を対象とした近未来の検索手法をぜひ体験していただきたい。

これらに加え、当館が全文の翻刻データを持つているものについては、その全文データを検索して当該書籍の該当箇所を検索することもできる。

まだ第一歩をしるしたばかりだが、今後さらなる検索機能の向上に取り組み、使い勝手のよいデータベースにすることを目指しているので、お使いいただきながら、ご意見や感想をおよせいただければ幸いです。



『広益国産考』巻六「伏見人形拵様」

# 「新日本古典籍総合データベース」の公開開始

古典籍共同研究事業センター 特任助教

井黒佳穂子

同センター 特任助教

松田訓典

同センター 研究員

片岡耕平

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に基づき構築作業が続いている「新日本古典籍総合データベース」(以下、新データベース)の公開が、平成二十九年四月から始まりました。従来の「日本古典籍総合目録データベース」を継承しつつ機能を大幅に拡充した、新たな「日本語の歴史的典籍」にまつわる総合データベースです。ここでは、新データベースの特徴をご紹介します。と思います。

## 多彩な検索方法

新データベースの最大の特徴は、多彩な検索の方法を提供する点です。書名・著者名といった書誌情報に基づく検索はもちろん、画像内でタグ付けされた資料用語からのアプローチも可能です。

また、検索画面には、「おすすめキーワード」・「ピックアップコンテンツ」・アクセス数と画像ダウンロード数の「ランキング」が表示されています。目的とする資料がなくても気軽に古典籍の世界に飛び込むことができます。もう一つの入り口です。なお、検索画面は、英語版も用意されています。

古典籍の世界を楽しむためには、くずし字の読解が必要不可欠です。しかし、その技術の習得には、かなりの時間を要します。新データベースは、この障壁をできるだけ低くするために、接続した画像の翻刻文を表示する「全文検索」と、画面上で指定した文字に

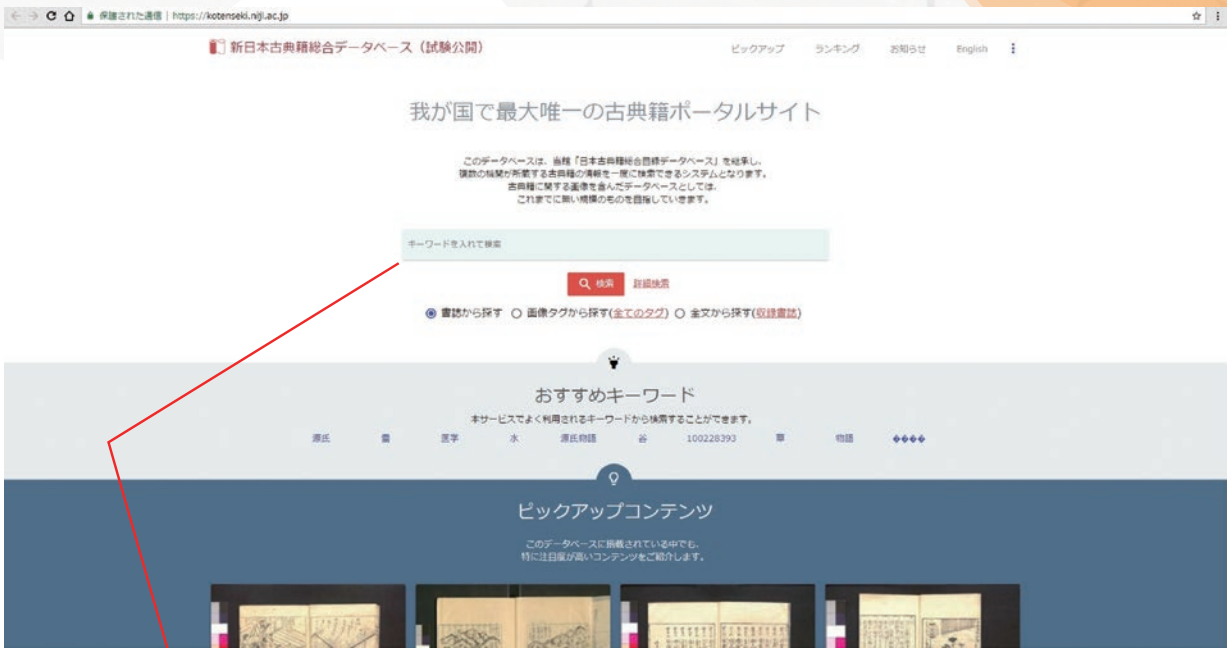
形が類似した他の画像の文字を集めてくる「くずし字検索」の機能を備えています。ともに資料画像上での直感的な操作で検索ができるようになっており、画像の充実を謳う新データベースならではの機能とすることができるといえます。現時点で利用可能な資料の数は限られていますが、随時増やしていく予定になっています。

## 永続的な接続

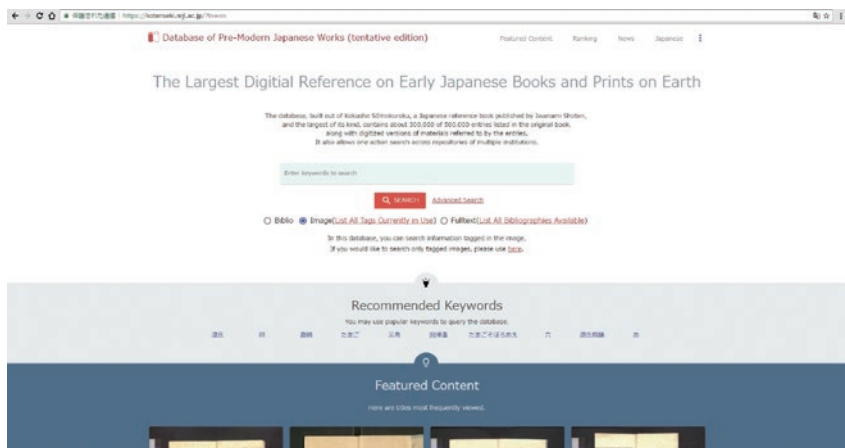
新データベースでは、データの識別にDOI(デジタルオブジェクト識別子)を採用しています。DOIは、国際規格の認定を受けたデジタルコンテンツの識別子です。インターネット上のデジタルコンテンツはURLで提供されるのが一般的ですが、それが指示するコンテンツの状態や所在は、発行者や管理者の都合で変更される可能性を常に孕んでいます。DOIは、この一過性を克服し、コンテンツへの永続的な接続を保証する識別子です。したがって、論文などで引用や参照を示す際に、新データベースの書誌情報に記されているDOIを示していただければ、読者はいつでも指示された資料に接続することができます。

新データベースへのアクセスは、「国文学研究資料館」↓「歴史的典籍NW事業」↓「新日本古典籍総合データベース」。

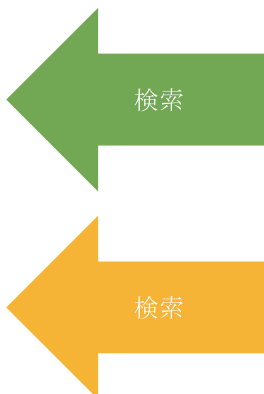
URL: <http://kotenseki.njil.ac.jp/>



【検索トップ画面 日本語版】



【検索トップ画面 英語版】



【検索窓拡大イメージ】

〈データベース公開〉

書誌情報

■ 新日本古典籍総合データベース (試験公開)

DOI

万葉料理秘密箱/前編

書誌ID	200021712
DOI	10.20730/200021712
種別	図次研究
収録書名	1. 万葉料理秘密箱/前編 (まんぼうりょうりひみつばこぜんべん) 内・巻・外 2. 萬葉料理秘密箱/前編 (まんぼうりょうりひみつばこぜんべん) 奥 3. 五子書珍 (たごこひやくちん) 奥 4. 萬葉料理秘密箱 (まんぼうりょうりひみつばこ) 序盤 5. 料理秘密箱 (りょうりひみつばこ) 巻
著者名	1. 新土屋 肇
巻数	巻之十一五
刊行	刊
出版事項	寛政7
形態	80丁, 22.1x13.5cm, 単
備註	1冊
書誌記	(原) 天明5年刊の複製, 巻之三五・巻末に出版広告あり。 (註) (原) 「抄写」。
コレクション	国文学研究資料館 古典籍刊行研究センター貴重資料
著作情報	
著作ID	000059105
統一書名	万葉料理秘密箱
巻数	五巻五冊
別称名	1. 万葉料理秘密箱 (まんぼうりょうりひみつばこぜんべん) 2. 五子書珍 (たごこひやくちん)
著者	新土屋

全文検索

くずし字検索

全文検索

くずし字検索

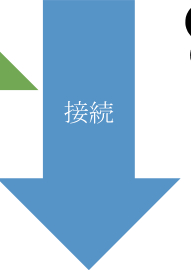
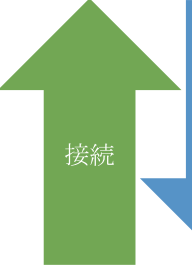
該当ページ画像

資料画像

画像タグ一覧

49コマ目	大鳥貴媛	大鳥貴媛				
48コマ目	おまつとたまご	小倉名物師	大鳥貴媛	おまつとたまご	小倉名物師	もっと見る
25コマ目	緋糸姫	白糸姫	かむし姫	白糸姫		
29コマ目	花婿	夏島返し姫	京中姫	膳屋姫		
26コマ目	五色姫	酒房姫	紅娘姫			
74コマ目	姫ケルセル	手巻姫				
31コマ目	茶姫	定家姫	よせたまご	ていかたまご		
59コマ目	金米姫	孔雀姫	まんへいとつた			
63コマ目	御前返し姫	たけのここみ	主舞前姫			

書誌情報一覧 (図省略)



選択



## 共同研究

# 「日本古典籍の書誌概念と書誌用語の国際化」について

国文学研究資料館 教授 落合 博志  
おちあい ひろし

平成二十六～二十八年度の三年間、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（歴史的典籍NW事業）」の一環として、稿者を研究代表者とする標記の共同研究を実施した。研究分担者として館外から久保木秀夫（鶴見大学准教授）・堀川貴司（慶応義塾大学斯道文庫教授）・村木敬子（五島美術館主任学芸員）、館内から海野圭介准教授・神作研一教授が加わり、また正規メンバーではないが、館内の入口敦志准教授と陳捷教授が随時参加した。

この研究を構想した動機は、現在巷間に見られる日本古典籍書誌学の概説書・辞典類をはじめ、書誌関係の記述において、しばしば執筆者により用語が不統一で混乱を呈していること、古典籍調査の進展に伴い、従来の書誌学の認識では覆いきれない書誌事象が見出され、それらに対応する新しい概念や用語を考案する必要があることである。特に前者は、同じ書誌事象に異なる用語が併用されたり、同じ用語が異なった書誌事象に用いられるなど、このまま放置できない状況にある。

大学図書館等に蔵される三〇万点の日本の古典籍画像を世界に

向けて発信するのは、もとより喜ばしいことである。しかしながら、画像に付けられる書誌記述が不統一不十分なままであっては、日本の書誌学の混乱した状況を世界に露呈することになり、決して好ましいことではあるまい。日本の古典籍の国際化に当たって、統一された、必要十分な書誌概念と書誌用語を整備することが不可欠な所以である。また歴史的典籍NW事業を離れて考えれば、様々な理由で画像化されず書誌データだけが公開される古典籍も少なくない。それらの場合、画像による確認・修正ができないため、不統一不完全な書誌記述の影響はより重大である。

もちろん、全ての概念や用語が問題なのではなく、特に目に付くのが装訂（これも「装丁」「装幀」など様々な表記があるのは御存じの通り）や奥書・識語関係のものである。

例えば、当館の日本古典籍総合目録データベースでは、同じ装訂に対して「れつじょうせう列帖装」「ていじょうせう綴葉装」が併用されており、当該データベースに採録される内で列帖装（綴葉装）の本にどのようなものがあるか調べようとすれば、両方の言葉で引かなければならない。同じ書誌



事象に異なった用語が使われていることによる弊害の端的な例と言える。因みに、公開中の日本古典籍データベースの書誌記述も「列帖装」と「綴葉装」を混用している。これについては、いくつかの理由から「列帖装」を用いるべきと考えているが、今説明は省く。

一方、同じく日本古典籍総合目録データベースで「識語」で検索すると、あるものは奥書を指し、あるものは跋を指すなど、データを作成した人により様々な使い方がされている。右の例と逆に、同じ用語が複数の異なる書誌事象に用いられている例である。なお、「識語」は本の所蔵者などがその本や著作について書き入れた言葉を指す場合に用いるべきと考える。同様の例として、「書写奥書」は、本奥書(底本)にあった奥書)に対してその写本が書写された際の奥書を指す用法と、本奥書も含めて、書写した旨を記している奥書を一般的に指す用法が混在している。これも前者の用法に統一すべきである。

また例えば、装訂名称として「仮綴」という言葉が使われる。これは紙縫で綴じた冊子本、特に表紙に特別な紙を用いない共紙(本文と同じ紙)の表紙の本について多く用いられ、糸を用いず紙縫で綴じたものという意味合いでかく言われる。しかし紙縫で綴じてある本は仮に綴じた本では必ずしもなく、紙縫綴じの本でもこの名称が適切でない場合がある。また大部分は袋綴であろうが、折

紙綴や双葉装などの場合もあり、「仮綴」だけでは装訂法が分からない。独立の装訂名称としては廃止し、袋綴ならば袋綴と装訂を記した上で、紙縫で綴じてあることを記述すればよいであろう。

本共同研究では、以上のような個別の書誌用語に関する検討のほか、国際化に向けた日本古典籍の書誌概念の体系的整理も行った。その内、年月・版元など版本の刊行に関する情報を記した「刊記」(冊末のほか、前見返し等どこにあっても「刊記」と呼ばれる)に対し、年月・書写者など写本の書写に関する情報を記した記事を、書かれた場所によらず「写記」と名付けて概念化し、奥書はその一部——といっても大部分であるが——と捉えること、本文の前(内題の後)や本文の後、時に題簽等に記載される、著編者名・著作の年月や場所その他著作の成立に関する情報を一括して「著作情報」として概念化すること、などは従来行われていなかった新しい着想である。

なお本共同研究の成果物として、『標準版 日本古典籍書誌用語集』の公表を予定している。これには主要な書誌用語の英訳を付すが、稿者が執筆した国文学研究資料館の通常展示「和書のさまざま」の書誌用語解説の英語版を基に、説明を詳しくする方向で調整中であり、いずれ中国語など他の外国語にも広げたい。

# 江戸の料理本をお手元に

大変お待たせしました！当館と公益財団法人味の素食の文化センターの協働により、同センターが所蔵する江戸の料理書・料理本約三〇〇点の全冊画像をこのたび公開いたしました。昨年にプレスリリースをし、反響を呼んだ江戸の料理などに関する資料がいろいろ楽しめます。食べ物から江戸時代の文化を紐解くひとときを満喫いただければと思います。

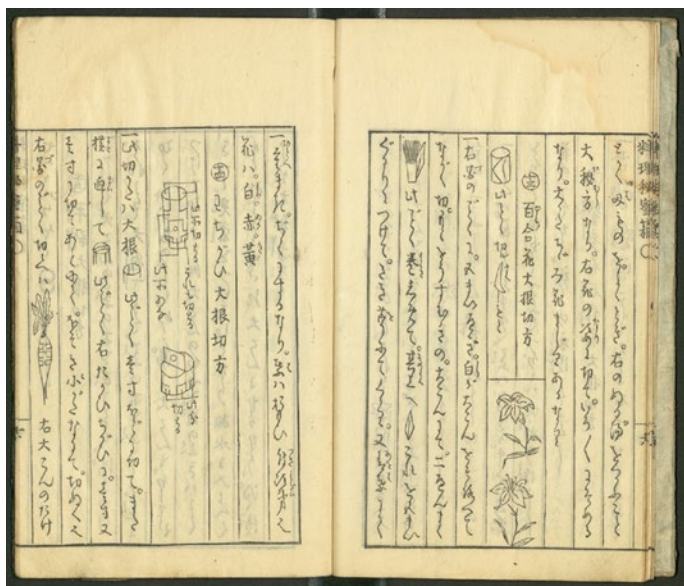
味の素食の文化センターは、食文化に関する研究支援と普及・啓発を目的とした公益財団法人で、食文化を学ぶことのできる施設です。図書館や展示室があり、一般市民の方にも無料で開放されています（港区高輪3-13-65）。

同センターには食に関する錦絵や古典籍が数多く所蔵されています。今回、同センターが所蔵する古典籍すべてを国文研にて画像撮影しました。その三〇〇点に及ぶ典籍は非常に状態も良く、画像をみても楽しめることと思います。

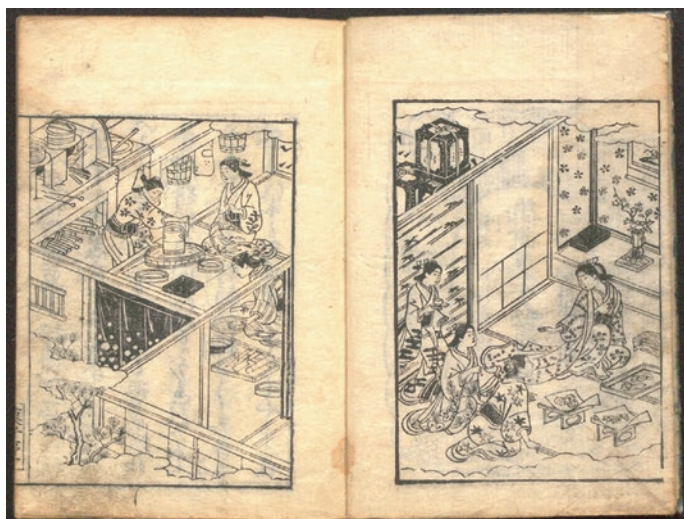
たとえば、クックパッドとの連携で話題をあつめた『万宝料理秘密箱 一名玉子百珍』をはじめ、『豆腐百珍』『甘藷(いも)百珍』『鯛百珍料理秘密箱』『柚珍秘密箱』『大根一式料理秘密箱』など百珍シリーズの書物も収録されています。「輪違い大根」などの作り方も書かれていて、読んでいるだけ

で江戸の食文化の豊穡さを知ることになるでしょう。なにが出てくるか、一点一点の作品を眺めてみては如何でしょうか。利用の条件もクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「CC BY-SA」。つまり利用する場合、たとえば「国文研撮影、味の素食の文化センター所蔵」と書いてくださればどなたでもご利用いただけるのです。見ただけならなにも要りません。どうぞ江戸の食の世界をお楽しみください。

江戸の図書(古典籍)  
<http://www.syokubunka.or.jp/library/edo-books/>



図版1：大根料理のオンパレード『大根一式料理秘密箱』



図版2：最も古い菓子専門書『御前菓子秘伝抄』

# 第3回 日本語の歴史的典拠国際研究集会を開催します

**第3回 日本語の歴史的典拠国際研究集会**

Project to Build an International Collaborative Research Network for Pre-modern Japanese Texts  
The 3rd International Conference on Pre-modern Japanese Texts

日時: 平成29(2017)年7月28日(金)~7月29日(土)  
場所: 国文学研究資料館 大会議室(東京都立川市緑町10-3)  
主催: 国文学研究資料館 国文学研究資料館  
National Institute of Japanese Literature, National Institutes for the Humanities

入場無料 聴講自由 LIVE配信

**7月28日(金)**

13:00 開会の挨拶  
13:05 開幕挨拶  
13:10 講演開始

13:30~15:25 パネル1  
文字認識のフロンティア  
「Frontiers of Character Recognition Research」  
概要説明: 山本和明/YAMAMOTO Kazumi (国文学研究資料館)  
報告 1: 内田健一/UCHIDA Kenichi (九州大学)  
報告 2: 本村一博/MURAKAMI Shirohiko (東北大学)  
報告 3: 奥代健仁/OKUDA Kenji (慶応義塾大学)  
討 論:

15:25~15:40 休憩 (15分間)

15:40~16:00  
「新日本古典籍総合データベース」の新たな試み  
「A New Experiment with the Database of Pre-modern Japanese Works」  
松田潤一/MATSUDA Kunio (国文学研究資料館)

16:00~17:00 パネル2  
文献観光資源学は何をめざすか  
「What are the Objectives of Comprehensive On-line Gazetteer of Japan?」  
概要説明: 谷川聖一/TANIKAWA Keiichi (国文学研究資料館)  
報告 1: 上原展之/UEHARA Hiroyuki (国文学研究資料館)  
報告 2: ユベツカ・アキラ/Yube Tsuka Akira (慶応義塾大学)

17:30~19:00 ソセプション

国文学研究資料館  
〒103-8281 東京都中央区本町2-1-1  
TEL: 03-5520-2981 E-Mail: info@nlj.ac.jp  
URL: http://www.nlj.ac.jp/english/

**7月29日(土)**

10:30~11:00 研究報告1  
古典の普及・教育と漢語  
「Transmitting and Teaching Japanese Classical Literature and Manga」  
小山根子/KOYAMA Junko (国文学研究資料館)

11:00~11:30 研究報告2  
絵本としての草双紙  
「Illustrated Worlds in Kusazōshi」  
佐藤雅/ SATO Satoru (実践女子大学)

11:30~12:00 研究報告3  
近世日本数学文献研究の新しい地平  
「New Horizons in Research on Mathematical Treatises in Pre-modern Japan」  
小川実/ OGAWA Tsukane (西日本大学)

12:00~13:00 休憩 (60分間・昼食)

13:00~14:30 パネル3  
「文芸を折る」—日本古典籍における折本という存在  
「Folding Literature: Folded Books in Pre-modern Japan」  
概要説明: 海野圭介/UNNO Keisuke (国文学研究資料館)  
報告 1: 佐々木孝浩/SASAKI Takahiro (国文学研究資料館)  
報告 2: マツコトス/MAZUKOTO Satoru (早稲田大学)  
報告 3: アレクサンドロ・ビアンチ/Alessandro BIANCHI (フーア | タカカ)

14:30~14:45 休憩 (15分間)

14:45~17:00 パネル4  
生活・環境と古典籍—異分野融合研究の可能性  
「Life, the Environment, and Pre-modern Japanese Texts: Prospects of Interdisciplinary Research」  
概要説明: 入口敬志/IRIGUCHI Atsushi (国文学研究資料館)  
報告 1: 小嶋孝子/KOJIMATSU Katsuko (国文学研究資料館)  
報告 2: 神谷幸弘/KOHMATSU Yukihiro (立命館大学)  
報告 3: 高武謙二/TAKAYAKE Yuji (国立歴史民俗博物館)  
報告 4: 田村純/TAMURA Makoto (筑波大学)

17:00 閉会の挨拶 谷川聖一/TANIKAWA Keiichi (国文学研究資料館館長)

**【会場案内】**

●本館前車いす利用の場  
●本館前車いす利用の場  
●本館前車いす利用の場

本館前には「日本古典籍データベース」所蔵の古典籍画像を閲覧することができます。「日本古典籍データベース」はオープンアクセスです。本館前には「日本古典籍データベース」の検索パネルが設置されています。

●オープンアクセス検索ページ  
http://www.nlj.ac.jp/ais/

第三回日本語の歴史的典拠国際研究集会を七月二十八日(金)と二十九日(土)に開催いたします。今回は、四つのパネル発表と三つの研究報告を用意いたしました。

特に注目目は本年度から開始の文献観光資源学！文献観光資源学は、歴史的典拠の中に存在する地域情報を、現代の視点から再資源化することによって地域の魅力を再発見し新たなツーリズムの開拓を目指すものです。パネル2「文献観光資源学は何をめざすか」として文献観光資源学を支援する基盤的な二つの研究について発表が行われます。

異分野融合研究の可能性—は、四つの異分野融合研究からこれまで得た研究成果や今後の展望について発表があります。①「『広恵濟急方』に見る江戸時代の民間救急療法」は、江戸時代の生薬について中国の医書や本草書などの影響や、現在の科学的エビデンスから見た用法の妥当性について。②「古代の甘味料」あまつら「の還元」では、歴史的典拠からツタ以外の植物が原料であるこ

との可能性について検証します。③「『延喜式』に見える貢納食材とその加工法」では、長鮓(ながあわび)の製造工程、アワビの種類、加工時期などを前提とした加工形状、加工による具体的成分変化等を検証し、古代税制や古代の食文化について考察します。④「気候変動適応学と歴史学、国文学との共働可能性」では、災害や農業をはじめとした歴史的な適応の事例から、今後の気候変動適応計画を実施していく可能性についての発表があります。

また、オープニングを飾るパネル1「文字認識のフロンティア」では、プロジェクトのミッションの一つであるテキストの実証試験に対して、理系の研究者ならではの発想からのアプローチである機械(コンピュータ)によるくずし字認識に関し、いま文字認識の研究はどこまで進んでいるのか、何が可能で何が課題なのか、研究の最先端を走っておられる三人の先生方から発表があります。ご期待下さい。

※パネル1のプロジェクトでは、人文学オープンデータ共同利用センター(CODH)とともに「くずし字チャレンジ」の取り組みを推進しています。

※詳細はウェブサイトでご確認願います。  
http://www.nlj.ac.jp/pages/cjproject/  
sympo20170728.html

## 海外におけるプロジェクトの紹介

東亜図書館協会(CEAL)の年次大会が三月十四日にカナダのトロントで開催され、北米日本研究資料調整協議会(NCC)主催のワークショップにて、「NJJL-NW Project: Current Progress and Future Prospective」と題し、山本副センター長等が発表を行いました。



## 「日本語の歴史的・近未来」の開催

八月三〇日に、リスボン(ポルトガル)で開催される欧州日本研究協会(EAJS)の大会に併せて、歴史的典籍NW事業と画像データを用いて新たに創造される研究方法など、日本研究の近未来像を具体的に紹介するプレイベントを現地にて開催します。

## ブックレット〈書物をひらく〉が平凡社から刊行中

共同研究等の研究成果を広く国民に関心を持ってもらうことを目的としたブックレットの4号・5号が、株式会社平凡社から刊行されました。

## ■「和歌のアルバム 藤原俊成 詠む・編む・変える」

歌人が和歌の言葉や詞書、配列を変え、にはどういふ表現意図が隠されているか。藤原俊成を例に創作過程に迫ります。



■「異界へいざなう女 絵巻・奈良絵本をひもとく」  
中世から近世の女性、登場人物、制作者、読者、伝える者として物語に関わってきました。絵巻や奈良絵本から、女たちと物語の関わりを見てゆきます。



## 協定書・覚書の締結

絵入本学会 (覚書 一月 三十日)  
ハワイ大学マノア校(協定書 二月 十六日)  
ハイデルベルク大学(協定書 二月二十三日)

【補足】DOI(デジタルオブジェクト識別子)について

「新日本古典籍総合データベース」を四月に公開しました。本編5頁でも触れておりますが、本データベースはDOI(Digital Object Identifier)を採用しております。本データベースで作品を検索すると、書誌データの欄にDOIの項目があり、例えば五月に公開された味の素の文化センター所蔵資料の『古今名物御前菓子秘傳抄』では、10.20730/100249376と表示されます。この番号を知っていれば、<https://doi.org/>に続けて入力するか、ジャパンリンクセンター(JALC)のサイト(<https://japanlinkcenter.org/>)のDOIリゾルバに入力しても当該資料を表示できます。DOIは恒久的にデジタル情報を特定できる国際的な識別子ですので、資料引用時の表示に最適です。

ふみ 第9号は、  
平成30(2018)年  
1月発行予定です。

■表題の背景色は葡萄色(まぶいろ)です。この色は日本に古代から自生している山葡萄の古名です。平安時代に書かれた源氏物語等にも男女を問わず着衣した色と記載されています。「ふどう」という読み方になったのは江戸時代中頃からです。

■本誌「ふみ」各頁の背景は当資料館蔵の「方丈記」(本阿弥光悦流の書体を模刻した嵯峨本)を利用しています。

■表題「ふみ」の書体は、石川島造船所(現IHI)創業者の平野富二が明治十二年六月に刊行し当館所蔵の「BOOK OF SPECIMENS」(活版印刷見本帳)を利用しています。

## ふみ

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」ニューズレター 第8号

〈発行日〉平成29(2017)年6月30日

〈編集・発行〉

国文学研究資料館  
古典籍共同研究事業センター

〒190-0014

東京都立川市緑町十一三

TEL 050-5533-2988

FAX 042-526-8883

<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>



当館所蔵の「窺天鏡之図・太陽図」がご覧になれます。携帯電話又はスマートフォンのアプリ等で、左記のQRコードを読み取りご覧ください。